

中部経済新聞に紹介されました。

2012年(平成24年)3月8日 木曜日

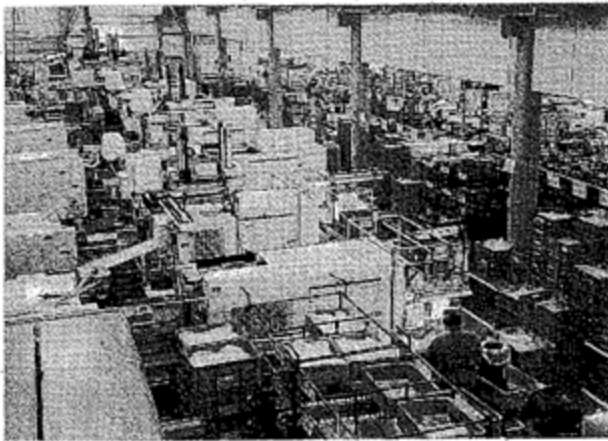
中部経済新聞

鈴木化学工業所 幸田へ本社工場移転

1棟内に全工程連結

自動車燃料系精密部品 生産効率アップ

自動車向け樹脂製部品メーカーの鈴木化学工業所(本社愛知県幸田町六栗左右作2の1、鈴木啓之社長、電話0564・64・1058)は、岡崎市福岡町から現在地に本社工場を移転した。射出成形や溶着など工程ごとに設備配置を集約するレイアウトを採用。生産効率を改善し、一段のコスト低減につなげる。



左側が射出成形、右奥側が溶着・組み付けスペース(幸田町の本社工場)

従来の本社工場隣接地の河川改修により移転した。現本社工場(幸田町野場)に段階的に生産設備を移し、現在は現本社工場でブレーキオイルなどのタンク部品、幸田工場でのほかの燃料系精密部品を手がけている。現本社工場は、敷地面積約7600平方メートル。平屋建て工場の敷地内に2階建て事務所棟を併設。延べ床面積

は約2400平方メートル。工場内は、射出成形機9台を1列で設置。(岡崎)

2012年(平成24年)3月7日 水曜日

中部経済新聞

加えて、溶着・組み付けごとに工場棟を分けて作業、検査スペースをいたため、現本社工場並行するように設け、レイアウトで工程間の移動距離を縮めた。鈴木社長は「細部にまで工夫を施し、満足いく出来になった。今後は生産効率の改善につなげたい」と話して

○…本社工場を岡崎市福岡町から幸田町に移転した鈴木化学工業所。社長の鈴木啓之さんは「多くの方の支援のおかげで本社工場を移転することができた」と話す。



急な対応で思わぬプラス効果

地選びに失敗したかと思われたという。原因になったのが移転地横の崖。「愛知県の『がけ条例』の対象地で、建屋と崖をある程度離す必要があると分かった」よつで、急ぎよ敷地への出入り口を同じ場所にするこつで対応した。「別にするつもりだった出入り口を一緒にしたこと、出荷トラックなどの出入りを把握しやすくなった」と一転、思わぬプラス効果を得られたようだ。(岡崎)

